

令和6年度第一回橿原市環境審議会議事録

会議名	令和6年度第一回橿原市環境審議会
開催日時	令和6年8月23日(金) 午前10時～11時30分
開催場所	クリーンセンターかしはら 3階研修室
出席委員	久会長、榎村副会長、中村委員、湊脇委員、葛本委員、谷委員
欠席委員	中委員
事務局	<p>環境部：高橋部長、上島副部長、新田副部長 環境政策課：西村課長、中谷課長補佐、梶井係長、 中本主査、和唐技術員 環境施設課：吉川課長 収集業務課：土田課長 資源循環課：瀬尾課長</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長挨拶 3. 委員紹介 4. 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・ 橿原市地球温暖化対策推進実行計画の骨子案について 5. 確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回審議会の開催日程について 6. 閉会 <p>(配布資料) 令和6年度第一回環境審議会次第 【資料1】 橿原市環境審議会委員名簿 【資料2】 橿原市環境審議会に係る関係法令 【資料3】 橿原市地球温暖化対策推進実行計画 骨子案について</p>
会議の公開/非公開	公開
傍聴	0人
担当部署 (事務局)	<p>環境部 環境政策課 〒634-8586 奈良県橿原市八木町 1-1-18 TEL：0744-47-3511 / FAX：0744-24-9716 E-mail：kankyoseisaku@city.kashihara.nara.jp</p>

次第 1 : 開会

次第 2 : 会長挨拶

次第 3 : 委員紹介

次第 4 : 議事

・ 榎原市地球温暖化対策推進実行計画 骨子案について

資料 3 を用いて事務局から説明。

<以下、本議題における質疑内容>

(委員)

温室効果ガス排出量の過去実績を回帰分析することにより将来推計をしているが、直線回帰での推計より対数回帰の方が精密ではないか。令和元年度から令和 3 年度は温室効果ガス排出量が大きくなっている。これらを異常値として直線回帰すると、もう少し減らせるのではないか。

(事務局)

必ず直線にならないだろうとは思っており、頂いたアドバイスを基にどの推計式がいいのか検討します。令和元年度から令和 3 年度の温室効果ガス排出量増加要因はコロナ禍によるものと考えており、引き続き傾向分析を行い、精度を高めていきたいと思えます。

(委員)

慎重にデータ分析をしてほしい。細かい分析をすると効果的な施策ができると思う。

(事務局)

事務事業編では一般廃棄物処理事業が大半を占めているため、廃棄物の減量化にターゲットを当てて計画を作っていきます。

(委員)

市役所内での廃棄物がどうなっているのか押さえていくことが重要だと思う。学校現場ではタブレットの使用により紙ごみが減っているかなど、小さなことを積み重ねていくと政策が見えてくると思う。

(委員)

区域施策編において、実施体制が不透明に思う。

(事務局)

市内の大規模事業者とコミュニケーションを図り、温室効果ガス排出量の削減の取組を進め、進捗管理することが望ましいと思っています。ただ、コミュニケーションの場の設定やコミュニケーションをどう取るのか、今後早急に検討を重ねていきます。

(委員)

地域協議会のようなものがしっかりしていくことが大切ではないか。エコライフかしはら

など、活動自体が難しいものをどう育てるのか1つのポイントかと思う。

(事務局)

地域協議会の活動が低下している課題があります。ご協力いただける企業などを増やし、協議会としての取組を推進していくべきだと考えています。

(委員)

環境に意識が高い方々と一緒にやることが重要だが、どのようにすれば環境意識の低い人に広められるかという観点が必要。

(委員)

温室効果ガス排出量を削減してきた事業者とあまり削減していない事業者とでは、同じ量を減らすにしても労力が異なる。削減が徐々に厳しくなるため、一律に減らせというのは酷である。現状や企業に合わせて進めていくきめ細かな協力体制が必要。

(委員)

当社は20年間環境活動に取り組んできたが、今は排出量を1%減らすことにも苦労しており、コスト増加に繋がる環境活動は経営層から承認を得難い現状がある。また、食品会社どうしではコミュニケーションを取っているが、異なる業界とはコミュニケーションを取っていない。そういう場を準備いただけるとありがたい。

(委員)

環境に貢献する商品を購入しない消費者にも問題がある。産業部門と消費者を繋いでいくような施策を産業部門と一緒に考えてほしい。

(事務局)

商品に対しての認証を研究しながら、購入者に対してどうアプローチするか検討したいと思います。また、都市計画等の研究や部門別の排出量の詳細などをもう少し分析して、計画策定を進めます。

(委員)

ぜひともよろしくお願ひしたい。もう少し様々な部門が連携できる形での施策をして、それを推計値の方へも反映させることも重要と思う。

(委員)

区域施策編において、事業系一般廃棄物をどのように削減していくのか。樫原市は事業が盛んになってくる傾向の中にあり、ごみが増えていく要素が多い。他市の取組事例などを研究され、削減施策を考えられてはいかがか。

(事務局)

市域で開発が進むと、廃棄物が増加することは認識しています。その状況の中でも廃棄物発電によるエネルギー回収をしっかりと行い、火力発電起因によるCO2排出量を削減することも、重要な取組の一つと考えています。

(委員)

小学校等で環境家計簿を利用した教育を行い、各家庭において子供からボトムアップしてもらおうと思う。

(委員)

パッケージ化して教材化してもらおうと普段の取組に効果がでてくると思う。今まで教育委員会と連携して教材開発は行ったか。

(事務局)

私の覚えている限り、教育委員会と連携して教材開発は行っていませんが、出前講座での情報発信を協力して行っています。加えて、市は環境教育を重要だと考えており、出前講座のメニュー・内容を充実することが良い方法だと考えています。

(委員)

子供達を通じて各家庭でボトムアップしてもらうのはよい考えだと思う。

これまで学校現場でごみの分別をあまり意識してこなかった。学校現場でごみ分別を意識することは、家庭ごみの分別につながると思う。

学校ごみで多いのは給食の残飯。コンポスト的なものを学校現場に普及できたらいいと思う。また、日常的に使うロッカーや机を県産材使用のものを使用するなど、まわりの環境を整えることも子供たちの意識啓発には有効である。

(委員)

東大阪市では環境基金を使って、環境活動を応援しており、応募者のほとんどが小中学校である。その中には生ごみのたい肥化をするためのコンポストを要望するものもある。環境教育だけでなく、環境活動を支援していただくのもありかと思う。

(委員)

学校給食の件だが、野菜くず等を与えて配合飼料を食べさせない養豚場が奈良市にある。お金は多少かかるが検討すると良いかと思う。距離はあるが参考にしてもらえれば。

(委員)

事務事業編と区域施策編では性格が違う。事務事業編は庁内の計画のため協力し合って取り組めると思うが、区域施策編は市全体に係る計画で、今だけでなく、将来を見据えた計画としないといけない。市域が発展していく中で、事業者との関係を組織化していくことが重要と思う。エネルギー基本計画次第では排出係数の中身が変わってくるし、どういった電力を使うかによっても排出係数は変わってくる。直近の6、7年を見て計画するより未来を見据えた計画として欲しい。

(委員)

個別またはコミュニティーで、電気を発電・消費するモデル的なものを市でできないか。学校は災害時の拠点になるほか、通常時は自家消費できる。検討いただけたらと思う。

(委員)

吉野の林業では J-クレジットを創出する吉野林業プロジェクトがある。目標を達成できない場合、その J-クレジットを利用してはどうか。

(委員)

基本的に橿原市で目標を達成するのが良いが、林業を支えることの観点からありかと思う。上の方はコストの問題を指摘するが、環境面における意義をよく理解して欲しい。

次第 5 : 確認

事務局より、次回の審議会の予定について、地球温暖化対策推進実行計画の計画案を議題に、令和 6 年 11 月頃に開催することを連絡。

次第 6 : 閉会